

グループ	授業科目名 (例)	概 要
付加価値 (仮)	教養	各コースに関連する教養科目のほか、一般的な教養科目を配置します。
	外国語 (英語) 科目	外国語の学修は英語のみとし、学生全員が2年間で、コミュニケーションツールとしての語学力に加え、技術マニュアル、商品の仕様書等の専門英語を身に付けます。
コア (仮)	キャリア形成教育	<p>考慮すべき状況は学生一人ひとりすべて異なるため、自分への「投資」、「リスクとリターン」、「機会費用」などの経済学の概念を講義しながらさまざまなテーマを議論し、意思決定のガイドラインについて、演習形式で学修します。</p> <p>誰かの勧めに従って進路を決めるのではなく、自らの将来をイメージしながら自らの人生を設計し計画的に意思決定をしていくための必要スキルを身に付けます。</p>
	長期企業インターンシップ	<p>地域の企業を戦略的パートナーと位置付けて実施する実習形式の授業で、地域に貢献できる実学系技術者育成の要となるプログラムです。</p> <p>パートナーシップ締結を行った企業に学生を派遣し、当該企業での技術・技能と知識を確実に身に付けます。</p> <p>さらに、在学中のこのような経験を通じて職業意識の形成、責任感、協調性、自立心の確立など、将来テクノロジストとして活躍していくためのレディネスを向上します。</p>
	科学基礎実験	<p>電気工学、化学、物理学、生物学などの各科学分野から基礎的な実験テーマを設定し、基本的な実験の実施方法、報告書の作成方法等を学びます。</p> <p>科学現象を理解するとともに、取得した数値データの分析過程における有効桁数の概念や統計的有意性等を学修します。</p>
	実学計測技術実験	計測はエンジニアリングの基礎です。音、光、温度、レーザー、電気、超音波などの物理現象を用いた計測実験を行います。後半には、機械工作や電気工作実習などを取り入れます。

授業科目の概要 [案] (2/3)

グループ	授業科目名 (例)	概 要
コア (仮)	クリエイティブ セミナール	<p>「クリエイティブ セミナール」は1年半にわたって開講される演習形式の授業科目で、教員2名、メンター1名の指導のもと、20名の学生で行われる少人数制のゼミナールです。</p> <p>分野が異なる複数の教員によって構成される4～5つのゼミナールに学生を配属し、四半期ごとにローテーションすることで、これらの社会人・技術者としての基礎技術を身に付けます。</p> <p>本授業の目的は、大学および大学卒業後に学生が自ら学修できるよう、学修への取り組み方を教授することです。本格的なアクティブ・ラーニングを行う「チームワーク セミナール」に備える目的で、次のような調査学修、グループディスカッション、ディベート、グループワーク等を通して、その学修方法を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での賢い学修の取り組み方 (スタディスキルズ) ・対人データの採集方法 (インタビュー、アンケート、カウンセリング) ・企業や業界のデータの採集、掘り出し (マイニング) 方法 ・分析、解析方法 ・論理的にまとめた提示やプレゼンテーションをする方法 ・報告書の作り方等 <p>上記の指導を通じて学生一人ひとりの創造性、向き・不向きを確認し、修学を確かなものにします。この段階では浅く広く学修を進めます。</p>
	チームワーク セミナール	<p>「チームワーク セミナール」では、「クリエイティブ セミナール」を基礎に、アクティブ・ラーニングによりチーム運営に必要な基礎を身につけます。「チームワーク創造メソッド」手法を用いて、チームメンバー全体で共通の目標 (理想) を創り、役割分担、コミュニケーションを駆使しつつ、ノウハウを蓄積し、失敗を重ねながらも、モチベーションを向上・維持し、目標を達成していく経験を獲得します。</p>
	ブラッシュアップ セミナール	<p>「ブラッシュアップ セミナール」では、専門科目の学修を不自由なく行えるように基礎知識のブラッシュアップを行うことが目的です。「クリエイティブ セミナール」の修了時にアセスメント・テストを実施し、必要とするブラッシュアップの度合いを調べます。スタンダード・ブラッシュアップとスロー・ブラッシュアップの2つのパッケージに対象とする学生を配属し、専門科目を受講するために不足のないレベルまでブラッシュアップ学修を行います。</p>
	ものづくり セミナール	<p>「ものづくり セミナール」では、少人数のチームを形成し、イノベーションを起こしたことがある特定の「企業または技術・技能」について、それまでに取得した情報収集・分析ノウハウを駆使してグループ内で役割を決めて分析・調査を行い、結果を報告します。</p> <p>また、次の段階で、特定の「業界」について、イノベーションのアセスメントを学修します。それまでに取得した情報収集・分析ノウハウを駆使してグループ内で役割を決めてマーケット・アナリシスの結果を報告します。</p>

授業科目の概要 [案] (3/3)

グループ	授業科目名 (例)	概 要
発展 (仮)	Introduction to Technology & Management Introduction to R&D and Innovation 各コース重点科目	専門に関する知識を深めるためにそれぞれ重点科目を学修します。 「Introduction to Technology & Management」および「Introduction to R&D and Innovation」では、低学年で学修する専門科目として配置し、オムニバス形式で実施します。
	卒業考究	4年間の集大成とし、地域産業の諸課題を1年間かけて研究し、結果を報告します。 技術経営コースの学生にはPBL問題発見・解決型学習方法を展開し、どのような道筋を経て問題解決に至ったかを学修活動の成果として報告します。 クリエイティブな思考を持つエンジニアを目指す創造技術開発コースの学生には、地元企業と共同で技術または製品の開発をテーマに研究を実施します。
ものづくり リテラシー (仮)	ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・起業家育成 ・プロジェクトマネジメント ・ビジネスモデル立案 	ワークショップ型の集中科目で専門のインストラクターや団体によって学内で実施します。 受講する学生は、体系化されたプログラムで、自発的に発言したり、作業したりして、新たなものを学びます。プログラムファシリテーターの調整に従って、皆がインタラクティブにプログラムに該当するものを体験的に学んだり、新たなことを見出したりしていきます。 例として技術開発のプロジェクトマネジメント、顧客開発による起業家育成、ビジネスモデル立案などを学修します。
	ゼミナール <ul style="list-style-type: none"> ・県央イブニングゼミナール 	地域のものづくりを知る目的で、企業から講師を招いて独占的技術、その技術の強み、弱みについて学修し、企業や技術の潜在的可能性について、柔軟な発想を引き出す訓練をします。